



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：平成 28 年 12 月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

2016-12 Vol. **12**

Sagaseishigakuen times

社会福祉法人 佐賀整肢学園

佐賀の史跡シリーズ

「筑後川昇開橋」

「筑後川昇開橋」は昭和10年に開通した国鉄佐賀線の鉄橋です。全長507m、中央部の可動橋は長さ24m、重量48 t。大型船の航行を考慮高さ23mまで引き上げ可能です。昭和62年、自動車文化の発展に伴い国鉄佐賀線は廃止、鉄道橋の役目を終えましたが、平成15年には近代産業遺産として国の重要文化財に指定されました。

いまなお筑後川のシンボルとして、東洋一の規模・現存する最古の可動橋として地元を愛され続けています。



巻頭言…2

REPORTS…3

タイムス特集…4～5

事業所 TOPICS…6～8

学園 FOCUS…9

局長随想 リレーコラム…10

ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10



二分脊椎と訓練

こども発達医療センター
整形外科顧問

藤井 敏男

車いすテニスは当学園の講師である佐賀大学の松尾清美先生が飯塚市の総合脊損センター時代に我が国に導入された。現在の日本のレベルは高く、リオオリンピックでは上地結衣選手が見事銅メダルを獲得したが、彼女は二分脊椎である。

二分脊椎は生下時に脊髄髄膜瘤があり下肢麻痺を呈する。1970年代の九大病院脳外科小児班は脳腫瘍の手術で忙殺されており、救急対応が必要な脊髄髄膜瘤の閉鎖術は整形外科が担当していた。1980年に開院した福岡こども病院には脳外科がなかったため、二分脊椎の閉鎖術はしばらく整形外科で行っていた。大学では生後2、3日目の手術だったが、福岡こども病院では出生日の救急手術が可能になり、当日手術では麻痺レベルが術前評価より1髄節軽くなると分かった。昔の九大病院のリハビリ部スタッフは旧制度の視覚障害の方々だったので小児の訓練は怖くて任せられなかったが、福岡こども病院では原寛道先生に依頼して佐賀整肢学園より赴任してもらった OTR 日野邦裕先生と共同で1例1例話し合いながら次のような二分脊椎の早期訓練体系を編み上げた。

脳性麻痺と異なり二分脊椎は①上肢機能は障害がなく、その発達促進のためにOTの早期関与が必要、②水頭症がコントロールされていれば知的発達は比較的良好、③幼児の発育に伴う自然な運動発達と、訓練効果による運動機能改善との鑑別は難しい、④生下時に大腿四頭筋筋力が4以上なら足変形を治療すれば将来短下肢装具で独歩可能、⑤移動能力のピークは8歳ごろでそれ以後徐々に低下するので、幼・小児期に移動訓練を集中して行うことが重要、⑥思春期以降の社会生活(学校を含む)での移動は第3腰椎レベルでは主に車いす、第4腰椎レベルでは車いすと独歩の併用、第5腰椎レベルでは独歩が多い。肥満は独歩から車いすになる要因。⑦訓練は短期目標を設定し6ヶ月ごとに再評価して再設定。この時、担当訓練士以外のスタッフも参加して客観的評価が必要、⑧最終目標は社会生活での自立した移動機能の獲得、などの特徴がある。

従って、二分脊椎児の立位訓練開始時期を1歳半から2歳として、①横隔膜が下降して胸郭が広がって呼吸機能が改善、

②下肢骨の萎縮防止で骨折予防、③視知覚の発達促進、を目標とする。二分脊椎の小学生の調査で、①足し算引き算は良い、②掛け算・割り算で遅滞、だった。これは空間認識障害を示しているため、幼児の視知覚発達を促進させるためにビーチボール遊びやブロック組立てなど家庭でも行える play exercise を選ぶ。

本年7月に北九州療育センター所長の松尾圭介先生が小倉で第33回日本二分脊椎研究会を開催され、別府発達医療センターのPTが過去6年間に年3、4回私と協同で行った二分脊椎診察会について報告した。これは医師、訓練士、相談員などが集まり1例に2時間かけて指導医の司会の下に、①診察前カンファレンス；担当医・PTが5分ずつ症例サマリーを報告し討議、②共同診察と討議；運動機能などの確認、家庭や学校での生活状況を保護者に確認、③診察後カンファレンス；診察のまとめ、短期・長期ゴールセッティングの協議、④主治医が家族に今後の治療方針を説明、というプログラムである。今回の発表は、この診察会により①変形・拘縮に対する整形外科的治療・補装具の適応、②麻痺レベルに応じた訓練プログラムや立位練習開始時期、③短期・長期ゴールの設定、④予後予測、⑤評価のポイントやリスクチェック、により症例の状態評価がスタッフ間で標準化され、治療方針と目標がチーム医療として統一されたため、患者・家族からの信頼が向上した、という内容であった。

当学園のように二分脊椎治療の長い歴史があり、治療・訓練体系が確立されている施設は全国では少なく、沖縄の家族会(ガジュマルの会)の夏の例会で5年前から診察相談会を併催している。講堂で医師や訓練士を含めた参加者全員の前でプレゼンしながら行うスタイルでプライバシーはないが、会場とも質疑応答しながらゆったりと平易に情報伝達が行えて一体感が強い。先月から松橋の熊本県こども総合療育センターでも別府と同じ様式で開始した。

二分脊椎の幼児の訓練は家族の負担が大きいが、「こどもがごまかうちに気張りんしゃい！」と親や祖父母を激励しながら、家族と医療側のチームワークを根気よく組み上げていく過程が大切である。

海外
研修

民間社会福祉施設等職員海外研修・調査（ヨーロッパ班）の報告

かんざき清流苑 総務課課長 谷口 貴志

この度、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが主催する海外研修・調査に参加させていただきました。福祉先進国である北欧（デンマーク、スウェーデン）での13日間の研修で、12カ所の福祉施設を訪問し、各施設の特色・最新の介護補助器具・認知症ケア・行政の取り組み等を学ぶことができました。

日本ではこれまで、「個別ケア」「ユニットケア」「タクトールケア」など北欧の福祉モデルを参考にして高齢者福祉に取り組んできた側面があります。しかし福祉先進国である北欧も、1960年代のノーマライゼーションの理念から今日まで様々な課題や失敗に直面しながら、30年程かけて社会全体で成長し、福祉国家を形成するに至っています。日本においても、今から20年前は介護保険制度導入前の措置制度でしたが、2000年の介護保険制度施行後は目まぐるしく変化を伴いながらも一歩一歩前進していると感じています。超高齢化社会・介護人材不足のなかで、介護予防・認知症ケア・地域包括ケア・看取り介護等、直



コペンハーゲン介護器具センターにて
筆者前列右より4番目

面する課題は多岐にわたりますが、研修で得た成果を生かし、高齢者福祉に携わる一人として自己研鑽を惜みず精進していきたいと思えます。

最後に、13日間お世話になりました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。全国に同じ「志」を持つ仲間と巡り会えたことが自分にとっての大きな財産となりました。また、研修に快く送り出していたいただいた事業所の皆様にも深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

海外
交流

サジク総合社会福祉館訪問

平成25年から交流協定を締結している韓国釜山広域市のサジク総合社会福祉館に、11月29日に10名の職員で訪問しました。

サジク総合社会福祉館は、在宅の障害者や高齢者、低所得者などを対象とした福祉機関であり、特徴的なサービスとして、情報処理プログラムや多国籍の方に対する言語訓練プログラムが挙げられます。中国、フィリピン、ベトナムなど様々な出身地の職員が、訓練や相談事業に取り組まれています。一方、利用者の方も多国籍のため、韓国語の訓練も行われており、国際化社会における福祉ニーズの多様化を実感しました。また、低所得家庭に対する支援として、ベビー用品のレンタルや乳幼児預かり事業など、多角的なニーズに応じた事業を実施されていました。特に公費の対象にならない方々は、行政だけでは把握することが難しいため、地域住民の協力によりケース発掘を行っているとのことで、日本に比べて地域との協同による在宅福祉が進んでいる印象を受けました。

午後からは、昨年度から管理運営委託を受けた「統営市障害者総合福祉館」を視察しました。こちらは障害者を対象とした通所機関であり、訓練室や靴などを製作する工房



サジク総合社会福祉館にて 筆者前列右端

などがありました。この機関では、特に健常者と障害者の垣根を無くし「幸せを共有する町」をコンセプトに、障害者との交流の場として、毎月地域住民が主催するコンサートの開催、一般地域住民や障害者へ共有ラウンジの開放、地域住民を対象とした「障害者に対する認識改善プログラム」の実施などを行っていました。

統営福祉館のジョンビョンドウ館長の「障害者が福祉館内で幸せを感じるのではなく、地域社会の中で幸せを感じることが大切だと思う」という言葉が印象深く、韓国と日本では福祉制度は異なりますが、福祉に対する意識、想いは同じであり、また見習う部分もあると実感しました。

今後、サジク福祉館より佐賀への訪問も予定されています。引き続き交流を行い刺激しあうことで、お互いの国の社会福祉の増進に寄与できればと考えます。

(法人事務局 田中 邦典)

社会福祉法人 佐賀整肢学園

糸島こどもとおとなのクリニック

□小児科 □整形外科 □リハビリテーション科 □児童精神科 □歯科

〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63番1



平成29年1月開設

障害児（者）の方々へのリハビリや歯科診療の他、地域の方々へ小児科（往診・予防接種を含む）・整形外科・リハビリテーション科・児童精神科の診療を開始します。

そのほか、平成29年度から福祉事業を追加開始する予定です。

糸島こどもとおとなのクリニックのご紹介



院長 市丸 智浩

この度、佐賀整肢学園の事業の一つとして、福岡県糸島市に「糸島こどもとおとなのクリニック」を開設する運びとなりました。場所は旧志摩町役場のすぐ傍らで、JR筑前原駅から「芥屋の大門（けやのおおと）」に行く途中にあります。この原稿を執筆時点で、建物はほぼ完成し、2017年1月4日をもって診療を開始する予定です。

この施設は外来のみで、入院はありません。この点が佐賀市や唐津市の施設と大いに異なる点です。小児科（医師1名）と整形外科（医師1名）、リハビリテーション科では、一般外来と発達障害や肢体不自由をもっておられる方々の理学・作業および言語療法を行い、児童精神科・歯科も標榜いたします。

これからいよいよ船出です。これからもさまざまな事柄が待ち受けていることと思いますが、職員一同、力を合わせて対処していきたいと思っております。今後ともますますのご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

- 建築概要 延べ床面積 1,486.8㎡(軽量鉄骨2階建て) 敷地面積 8,308.51㎡
 □完成工事 平成28年7月14日～平成28年9月8日 □建築工事 平成28年9月8日～平成28年12月15日

2F



1F



内部イメージ



1階 整形外科リハ室
(送迎ルートを計画中です)



2階 小児リハ室
(理学・作業・言語と別に個別のリハ室を準備します)

常勤医師診察

- 小児整形
脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症等の疾患に対する治療、各種補装具関係の処方を行います。
- 小児リハビリ
リハビリテーション専門医の処方のもと、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がリハビリ(個別)を実施します。
- 一般整形および一般リハビリ
膝や腰等の痛みに対する治療、骨粗しょう症に関する治療、廃用性症候群等介護予防のための治療、理学療法士による運動療法、低周波治療器や温熱治療各種牽引装置等による充実した物理療法設備を完備しております。
- 一般小児外来
発熱、感染症等一般的な小児科の診察および検診や予防接種を行います。アレルギー専門外来を設置します。

非常勤医師診察(完全予約制)

- 小児神経
てんかん脳症など、小児神経疾患に対する治療や投薬治療を行います。
- 児童精神科
発達障害等に関する発達障害外来ならびに不登校外来に対応します。
- 小児リハビリ処方外来
- 診断書外来
- 補装具外来
- 障害児歯科 (平成29年4月より常勤へ変更予定です)

- 小児科・整形外科
- リハビリ科：小児リハは予約制
- 小児神経外来：予約制
- 児童精神科：予約制
- 歯科：予約制
- 特殊外来：車椅子・補装具等の処方・各種診断書
検診や予防接種については予約制

佐賀整肢学園 糸島子どもとおとなの クリニック





5月19日、南棟4階で日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」の福祉活動の一環として、おはなしキャラバン「つばさ」による人形劇「ホンザときつね」の訪問観劇会が開催されました。

会場全体を使い音響もきれいで、人形が滑らかに動き、まるで人形が生きているような迫力のある人形劇でした。利用者の皆さんは、ステージ側に出て音楽に合わせて歌ったり、楽器を持って鳴らしたりして喜んでいました。また、玩具のブロックを使って飛行機を作るなど体験型の人形劇で、会場全体に笑いと笑顔が溢れ、大いに盛り上がりました。注目して見る方や大音量に驚いた表情の方もいましたが、それぞれの感じ方で参加され、あつという間の楽しいひとときでした。(原田 彩子)



5月22日、全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会にオークスから2名の利用者の方が参加しました。

障害のある選手が、大会の開催を通じてスポーツの楽しさを体験し、競技力の向上を図るとともに、障害者スポーツの振興に寄与することを目的に行われています。

年に1回の大会ということもあり、少しでも良い成績を残すべく、朝早くから時間を見つけては、職員とともに日々トレーニングをしてきました。当日は会場の雰囲気や観客の多さに緊張されていましたが、全力で競技に挑まれました。成績については、自己ベスト更新や入賞と利用者の方も納得のいく結果に笑顔で大会を終えられました。現在はすでに来年の大会に向けて、練習を再開されています。(森 泰樹)



かんざき日の隈寮では、平成22年より外部講師として久保田美保先生をお招きし、ヨガ教室を開催しています。簡単なヨガの講習を受け、日常生活に取り入れることが目的です。

会場のマットに座り、呼吸を整えてヨガの開始です。先生のかげ声や動きに合わせて、利用者の皆さんも一息懸命体を動かされていました。ヨガの動き1つ1つはとてもゆっくりですが、音楽の中、独特のポーズを行っているのと体がだんだん温かくなってきて、うっすらと汗をかく方もいらっしゃいました。

一通りの動きを終えた後はヒーリングタイムです。毎回、先生手

作りのアロマオイルを持参してもらい、職員と一緒に参加者全員にマッサージを行っています。マッサージは癒しの効果が高く、気持ちのよさに途中で眠ってしまう方もいるほどで、会の終了後、「気持ちよかった」、「体の調子が良くなった」、「またやって欲しい」等の感想が聞かれました。以前は毎年1回の開催でしたが、利用者の方に好評のため、平成28年度は3回の開催を予定しています。

これからも健康と癒しのため継続して活動できるように取り組んでいきたいです。(田中 貴大)

第1病棟では、7月26日に佐賀県立宇宙科学館へ夏季体験学習に行ってきました。前日に事前学習の時間を設け宇宙科学館とはどんな場所なのか、どんなことを学びに行くのかを勉強しました。宇宙科学館には佐賀県の生き物や自然について学ぶコーナーもあるため、事前学習の中で佐賀の生き物クイズを行いました。県外から入所されている利用者の方も多いため難しいようでしたが、楽しく佐賀について学ぶことができました。

当日は、天気も良く、暑いぐらいでした。宇宙科学館に到着するとグループに分かれて様々な展示を見て回りました。宇宙科学館では、夏休みの特別企画「世界の虫展」が行われており、たくさんの種類のカブトムシやクワガタを見ることができました。他にも、ゲーム感覚で遊べるコーナーがあったり、地震を体験できたりと様々なことができました。また、事前学習で勉強した佐賀県の自然についての展示では、生き物を見て「これわかった！クイズに出たよ！」と言いながら取り組む方もいました。最後のプラネタリウムでは、初めてプラネタリウムを見る利用者の方も多く、とてもわくわくされていました。上映が始まると、プラネタリウムに映る星に惹き込まれ、星を見ながらリラックスして楽しむことができました。夏休みに楽しい思い出を作ることができたと思います。(百島 亜希)



事業所 TOPICS

(5月～10月)

夢かなえ事業

7月

かんざき清流苑



特別養護老人ホームかんざき清流苑では年に数回、施設で生活されている利用者の方の要望に沿った「夢かなえ事業」を実施しています。

利用者の方は様々な想いを秘めて日々生活されており、職員の方の少しの手助けで、その方の想いをかなえることができれば私達にとって、とても嬉しいことです。

今年は福岡県柳川市にうなぎを食べに行きました。その中で一組の夫婦の参加がありました。うなぎを食べながら、そして料亭の庭園を散策しながら「昔を思い出すね」との会話をされていました。夫婦互いに満面の笑みでお話をされており、それを見ていた職員は目頭が熱くなったそうです。

夢かなえ事業はこれからもずっと続いていきます。来年は誰の夢をかなえようかな～利用者の皆さん楽しみにしててくださいね。

(福良 一典)

防災活動を通じた地域貢献

7月

佐賀向陽園・わいわい

佐賀向陽園・わいわいでは、今年度より、地域防災活動の一翼を担いたいと、職員の有志2名が佐賀市消防団に入団しました。7月に新入団員訓練や夏季訓練などに参加し、消防団員及び施設の防災担当職員としての資質を磨いてきました。

当施設ではこれまで、地域への恩返しとして、地元老人クラブの活動支援である「あつまろう会」を平成27年6月に立ち上げ、各種専門職の派遣を行い会員との交流を図っています。また、地元自治会の要請を受け、台風や地震などの災害時に独居高齢者を受け入れる災害一時避難の場として、空き部屋を活用した避難者用部屋と送迎体制を整備しました。

こういった活動により、地域高齢者にも様々な施設行事へ参加いただくことが増え、当施設がコミュニティの場となり、以前にも増して地域との交流が深められていることを実感しています。(早川 清十郎)



在宅サポートセンター スイカ割り大会

8月

オークス



8月、在宅サポートセンターは一段と賑やかになります。放課後等デイの利用者の皆さんは、待ちに待った夏休みに突入。普段、ゆっくりとお話する時間が少ない介護保険や生活介護の利用者の方とも関わりを持つ機会が増えます。今回、活動を通じてもっと親しくなって欲しいと、スイカ割りを企画しました。放課後等デイの利用者の皆さんは、朝の会でスイカ割りがあることを知り、とても喜ばれていました。

合図が鳴り、いよいよスタートです。目隠しをして、スイカを目がけ進みます。「右!」「左!」「まっすぐ!!」「そこー!!」と周りからも大きな声がかかっていました。振り下ろした棒がスイカに当たった時には、たくさんの拍手や声がかかり、非常に盛り上がっていました。その後は会話を楽しみながら、割ったスイカをみんなで美味しくいただきました。

今後も、年齢や利用されている事業の枠を超えて、利用者の方同士が交流できる機会を作っていきたいと思えます。(寺井 雄二)



9月14日、敬老の日の訪問に、かんざき清流苑と佐賀向陽園の2施設へ、第1病棟の3名の利用者の方が行われました。事前に、どのようなことをしたら入所者の皆さんが喜んでくださるか話を、「歌を歌いたい!」と言う利用者の方の意見もあり、今回は皆さんと「手をたたきましよう」「靴が鳴る」「故郷」の3曲と一緒に歌って、楽しんで頂ければということになりました。

当日は、多くの入所者の方にお出迎えていただきました。入所者の皆さんの手を握らせていただいたり、歌詞を肩たたきましように替え、入所者の皆さんの肩をトントンとたたかせていただいたりしました。すると、皆さん喜ばれ、「いくつね〜」「かわいかね〜」と次々に利用者の方に声をかけられていました。施設の職員より、「入所者の皆さんの涙山の実顔を見ることができ、よい刺激になりました。」と言われてもらい、こちらも皆さんの元気で温かさに触れ、幸せな時間を過ごすことができました。(飯田 千鶴)

清流苑グループホームでは、月1回季節を感じていただけるよう苑外活動を行っています。お昼は外食もしますが、利用者の方と職員で料理を作り弁当箱に詰めて出かけることがほとんどです。「これはここによからうか?」「こっちがよくなかね」等、みんなでワイワイ話しながら10数個の弁当箱に詰め、出先がるとみんなで「できたねー」と拍手をし、喜び合います。外出先では、弁当箱を開けると自然に「わー、美味しかごたー」「きれいかねー」と笑顔になられ、四季を感じながらみんなで「美味しかねー」と食べます。10月は金立公園でコスモスを見て、仁比山公園でお弁当を食べました。これからもみんなでお弁当を食べ、ゆっくりと過ごす時間を大切にしたいと思います。(御厨 彩子)



10月15日、体育大会当日は、晴天に恵まれ、絶好の体育大会日和となりました。久里双水園の食堂も日頃は様子を大変させ、万国旗をはためかせ、一気に体育大会の雰囲気になりました。大会開始時間が近づくと、赤と白の鉢巻をキュッと締めた総勢55名の選手が会場に集まり、ご家族の皆さんにも応援席へと集まっていたいただきました。施設長の開会の挨拶に始まり、2名の利用者代表の方が選手宣誓を行い、皆さんでの「エイエイオー!!」の元気な掛け声を合図に、いよいよ競技がスタートしました。

競技は4種目で、紅白対抗の玉入れ、風船運び、ハロウィンの衣装をのした選抜リレー、職員のキャタピラー&給食でした。風船運びでは、職員が手を出し過ぎて、施設長判定で「再試合!」となるハプニングもあり、会場から大きな笑いが沸き起こりました。競技が進むにつれ、選手の皆さん、ご家族の皆さん、職員と会場全体が一体となり、盛り上がりしてきました。最後のキャタピラー&給食競争では、職員が片栗粉一杯の桶の中から給を探した末、真っ白にお化粧した顔で会場を一周する姿に、皆さんがお腹を抱えて大笑いをされている姿が印象的でした。

第15回目の体育大会は、楽しそうな笑顔と大きな笑い声と声援に包まれ大盛り上がり大会となりました。(村上 亮子)

10月28日に寮祭を開催しました。寮祭は地域交流を目的とした、かんざき日の隈寮3大イベントの1つであり、今年も大勢の地域の方にご参加いただきました。

静浄会・藤間静浄先生の祝舞で華やかに始まり、小桜保育園の園児さん達の演技では、組み体操とよさこい音頭を元氣よく踊っていただき、会場全体に笑顔があふれました。利用者の方もこの日のために練習したダンス・日舞を披露しました。中でも利用者の方で構成された日舞クラブは、練習の成果を毎年寮祭で発表しています。男性利用者はポッキーのCMでおなじみ「シェアパビダンス」を、オリジナルの振り付けを入れた日の隈バージョンで格好良く踊っていました。会場中の皆さんから手拍子ももらい、最後まで気持ちよく踊ることが出来ました。

その後、利用者の方は園児さん達と一緒に美味しいお弁当を食べ、ご館の後には出店も行いました。ハロウィンの飾り付けをした会場では、目をキラキラさせた園児さんが射的やくじに夢中になっていました。「楽しい!!」との嬉しい声も聞こえ、最後まで大いに盛りあがった寮祭になりました。(小林 恭子)



佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回はかんざき清流苑 入所課で介護福祉士として勤務し、幅広い趣味をお持ちの高橋龍さんに趣味の一つであるアイスホッケーについてお話を伺いました。

学園 FOCUS

Q アイスホッケーをされている方って珍しいと思うのですが、アイスホッケーを始めたきっかけはなんですか？

A 昔、木村拓哉さんが出ていたアイスホッケーのドラマに影響を受けて始めました。最初はキムタクみたいに格好よく滑れませんでした。今はキムタクに負けないぐらい格好よく滑れていると思っています。(笑)

Q 練習はどこでされるのですか？ 試合もありますか？

A 毎週火曜日と土曜日の20時から福岡県久留米市のアイススケート場で練習をしています。室内のアイススケート場なので、夏でも楽しめます。毎年冬に九州大会が開かれますので、その大会での優勝を目指して毎週練習をしています。

Q アイスホッケーの魅力は何でしょうか？

A 氷の上での動きはとても速く、走っているだけでも爽快感があります。また氷上の格闘技と呼ばれる様に身体のぶつかりあいもあります。最初は怖かったのですが、今ではぶつかる事で更に白熱するようになりました。アイススケートはとても激しいスポーツなので、練習の後にはくたくたになりますが、試合で練習の成果を出せた時やチームメイトと連携が図れた時、ドリブルで敵を抜き去った時、シュートを打って得点を決めた時の快感は何ともいえない達成感があります。他にも多くの人と繋がりを持つ事ができて、良かったと思っています。アイスホッケーはあまりメジャーなスポーツではないので、練習試合や大会で顔を合わせるのを見知った顔ばかりです。試合では敵同



たかし りょう
高橋 龍さん

かんざき清流苑
入所課介護福祉士

士ですが、試合の前後は仲良く話をしてチームの状況を報告しあったりしています。アイスホッケーの魅力は語りきれないくらい沢山ありますので、是非とも体験してみるのが一番だと思います！

Q アイスホッケーをやっていて良かった事はありますか？

A 体力と筋肉が付きましたね。元々スポーツをやっていなかったんで、体力も筋肉も全然ありませんでした。1年程して気がつくとも体力がついているのを実感し、筋肉は見れば分かる程ついていました。仕事でも疲れにくくなってきましたよ。あと、ダイエットにもおすすめです。

Q その体力と筋肉を大いに活用し仕事にも精を出されていますね。では、最後に一言お願いします。

A 興味のある方は是非声をかけて下さい。一緒にアイスホッケーを楽しみましょう！



